

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和4年 8月29日 第6号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



会うと嬉しく、来ると楽しい

校長 鮫島 弘樹

突然鳴り響いた大きな警告音と、周囲の人々から寄せられる視線に、私は少々ばつの悪さを感じてしまいました。

ある施設の入り口で、設置された検温機器の液晶画面に自分の顔を映すや否や、けたたましい音とともに「体温を確認してください」と音声アナウンスが流れたのです。40℃近い酷暑の中を歩いてきたので、顔の表面が高温になっているのも当然のことでしょう。この夏の暑さを象徴する一場面でした。

グラウンドや体育館、武道場、中庭、そして校舎内など校内のあちこちで、夏休み中の部活動に励む1、2年生の姿が見られました。時間を細かく区切った給水や休憩、活動前から十分に水分補給しておくことの必要性を繰り返し指導するなど、どの部も熱中症の予防について特に配慮しながら進めてきました。

「帰ったらアイス食べます!」「(持参した水筒の)2ℓ飲み切りました。」「暑いんですけど、慣れると結構大丈夫ですよ。」「今日は練習試合でした。はい、勝ちました!」活動を終えて帰路に就く生徒たちは、暑さでグッタリ、という訳でもないようです。汗を浮かべた彼らの表情に、清々しさや明るさを感じていたのは、私だけではなかったはずです。

他方、様子を直接見られた訳ではありませんが、3年生の多くはこれまで経験したことのない夏休みを過ごしてきたことでしょう。必ずしも、全員が理想どお

りの日々を過ごせたわけではないと思います。「机に向かってもすぐに気が散ってしまう自分」などを自覚し、そんな自分との闘いに明け暮れた3年生もいたのではないかと推察します。

「夏休み」という単語は子供たちをワクワクさせる甘美な響きである一方、8月も中旬を過ぎたあたりからは、切なくも寂しい、あるいは物悲しい響きに変化していく言葉でもあります。

2学期が始まりました。私はここ数日の間、四中生たちが夏休み中にどんな経験を積んできたのだろうか、と想像していました。3年生が机に向かっている姿も、おぼろげながら想像してみました。さらに、おそらく多くの生徒たちが、ここ1週間ほど「夏休み、終わってしまうのかー」といった気持ちを抱いていたのであろうことも想像してみました。

その上で改めて考えたのは、「やっぱり、みんなの顔を見ると嬉しいね。」「学校って、来ると楽しいことがあるね。」「と生徒たちに感じてもらえる四中でありたい、ということです。

早速、9月17日(土)には体育祭が行われます。夏休みの間にも、何度か集まって練習する姿が見られました。身体能力やスキルの高さを競うだけでなく、様々な要素が詰まった行事です。熱くなることの良さや楽しさを味わってもらい、2学期に弾みをつけたいと考えています。

保護者や地域の皆様には、今学期も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。